

開発途上国研究者の情報生産と利用

城山 泰彦 (KIYAMA, Yasuhiko)
順天堂大学図書館

I. 【はじめに】

開発途上国における学術情報環境を支援するプログラムとして、2002年に HINARI (Health InterNetwork Access to Research Initiative) が開始された。従来の雑誌寄贈による支援に代わって、学術雑誌の電子化や“誰もが平等に情報にアクセスできるようにする” Open Access Journal の理念を利用して展開している点が特徴である。通信環境や電力さえ整えば、何処にいても最新の学術情報へアクセス可能となる。提供・参加側ともに規模を拡大して、現在は3,780 タイトルを提供、113 か国の約2,500 機関が参加している。

そこで HINARI などによる開発途上国への学術情報支援プログラムに一定の成果がみられるなら、学術情報に乏しかった HINARI 対象国研究者の研究動向に変化が生じていることが予想される。それらについて分析を行い、開発途上国における情報利用と情報生産の実態を掴み、学術情報支援プログラムが開発途上国の研究者に与えている影響を確認する。

II. 【調査方法・調査項目】

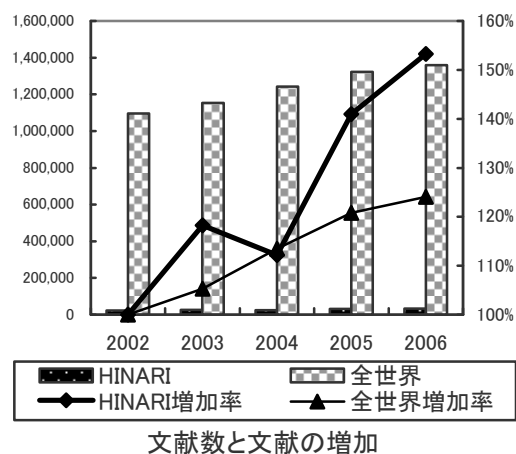
Web of Science を用いて、計量書誌学的手法により調査した。HINARI にかかわる国の状況を HINARI 対象国、HINARI 非対象国、全世界の3つに分け、文献数、カテゴリー、医学カテゴリー、記事区分の4項目の調査により、開発途上国での研究動向をさぐった。

III. 【調査結果】

HINARI 対象国では医学文献の数と割合が増加し、分野の広がりも確認できた。記事区分では論文の減少と会議録の増加という全世界と同様の傾向がみられたが、HINARI 非対象国ではみられなかった。これらの結果から、HINARI 対象国では学術情報支援プログラムにより、多くの学術文献を入手できるようになった影響があらわれていると考えられる。ただし文献数の傾向だけでは、これらが HINARI による直接の効果と結論付けることは難しい。

プログラム評価には健康への寄与を計ることも必要になる。しかしながら開始5年間で HINARI 対象国に特有の傾向を確認することができた。

学術出版団体や図書館など、HINARI を取り巻く環境は好意的で、将来計画で少なくとも2015年までは現状のプログラム展開を確認している。一方で利用者からは学術文献よりも診療にすぐ役立つ情報が求められ、安定した通信・電力環境を実現させるなどの課題が挙げられている。今後は HINARI の背景や引用文献や国際共同研究など、多角的な分析を行いたいと考えている。



文献数と文献の増加